

1 学校として目指す授業

1. 「目標」－「振り返り」を行い、見通しを持たせる授業。 2. 考え表現させる授業（個人→集団→個人）。

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（中学校3年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語 情報の扱いに関する事項が低かった。 数学 箱ひげ図の違いの読み取りが全国平均を下回っている。無解答率は低くない。 英語 おおむねできているが記述式に弱い。	授業で、自分の考えを工夫して発表すること、授業で学んだことを工夫してほかの学習に生かすことができた生徒が多い。 英語の勉強が好きな生徒が少ない。 塾や家庭教師に教わっている割合が少ない。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析

1年 自分で計画して学習をしている「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が85%と高く、フォーサイト利用の成果が出ている。各教科の理解度も80～90%と高い。  
2年 「各教科の学習を得意と感じる意識」「学習習慣」の全ての項目で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が都の平均以上だった。逆に「学習の動機」「学習の進め方」は下回っている。  
3年 英語と数学と社会が「どちらかという得意ではない」と感じている生徒が半数を超えている。英語の授業の理解度においては、「どちらかといえばわからない」と答えている生徒が半数を超える。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（2学年）

国語 全国の平均正答率と比べると4%下回っていた。領域別では「情報の扱い方に関する事項」は-0.6%、「我が国の言語文化に関する事項」は-1.6%と比較的差が小さかったが、他の領域については-3.7から-4.8%下回っていた。問題の内容別の正答率も全ての内容で全国平均を下回っていた。特に文法・語句に関する事項は-7.9%、「文章を書く」が-8.6%と差が大きい。  
数学 全国の平均正答率と比べると0.9%上回っていた。領域別で見ると「数と式」は+6.1%、「データの活用」は+0.4%で上回っているが、「図形」は-2.7%、関数は-4.8%で下回っていた。問題の内容別の正答率では「比例・反比例」、「空間図形」の2つの内容が、それぞれ-4.8%、-7.1%と下回っていたが、他の内容では上回っていた。文字式は+10.3%だった。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
特になし

3 生徒の学力・学習状況等の課題

記述式問題。複数の資料を比べ考察し、違いや共通点を答えることが苦手。

**【授業改善推進プランの活用法】**  
 ①「1 学校として目指す授業」を設定する。  
 ※学校経営方針との関連を確認すること。  
 ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。  
 ③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。  
 ④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。  
 ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。  
 ⑥12月末に実施状況进行评估し、3学期以降の指導に生かす。  
 評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

授業内で、他者の意見を聞いたり自分の意見を発表したりする機会が得られているが、「考察・分析」の力が足りていない。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学年	ペアやグループで自分の考えや意見を伝え合い、考えを深め合う機会を設ける。		・単元シートを活用し、個別最適で協働的な学びの一体的な充実を図る。		思考の過程を数学の言葉を用いて説明し、互いの意見の共通点や相違点を探る学習を取り入れる。		・物事を科学的に考えるための基礎として、生物の場合には、分類によって特徴をとらえられることを理解させるように問いかけるようにする。		表現活動の中で、具体的な表現方法やその表現に至る考え方を自分の言葉で表し、ほかの生徒と共有する時間をもつ。		完成した作品を鑑賞する際に作者の意図や表現の工夫も発表し、見方を深め次の表現に生かせるようにする。		集団行動を身に着け、基礎体力の向上を目指す。各種目の基本的な技術を身に着ける。		身近な問題を発見し、ものづくりを通して課題を解決に取り組みさせる。		単元における評価内容を明示化し、目標達成のために見通しを持った学習に取り組ませる。		よりよく生きていくために様々な考えを出し合い、認め合い、深め合う活動を取り組みさせる。	
2 学年	基礎的な知識である文法や漢字の学習を積み重ねるとともに読書に親しみ、語彙力をつける。		・多数の解が考えられる問いを深める授業を通して主体的・対話的で深い学びを実現する。		習熟度別授業を活かし苦手な生徒が理解できるように授業を行う。良い学習の進め方や考え方を共有できるようにする。		学習内容を理解しそれを日常生活での現象と結びつけて考え、より深い知識として身につけられるようにする。		表現活動の中で、具体的な表現方法やその表現に至る考え方を、ほかの生徒と共有する中でより良い表現を学びあう時間をもつ。		作品の構想段階と制作途中で意見交換の場を設け、粘り強く課題に取り組めるようにする。		基本的な技能の習得をしつつ、様々な体力を高めるための運動を実践する。		世の中のテクノロジーに目を向けて、トライアル&エラーで課題解決のために粘り強く取り組みさせる。		英語を使う上での瞬発力や量、適格性に磨きをかけていく。		多様な考えを授業内で共有し、よりよい自分・社会の実現のためにできることを考えさせる。	
3 学年	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直せるようにする。意見と根拠など情報との関係を学ぶ。		一人一人が根拠に基づいて自分の意見を持てるようになるための知識の確認を行う。多様な意見や考え方が生まれる発問や課題の設定を通して対話的で深い学びにつなげる。		「答え」を導く過程に重点を置き、様々な解法を認め、違いや共通点を授業内で共有する。		実験観察を通じて課題に取り組み、意見交換なども含めた考察を行い、自らの手で課題を解決する学習を進める。		表現活動の中で、具体的な表現方法やその表現に至る考え方を、ほかの生徒と共有する中でより良い表現を学びあう時間をもつ。		美術の持つ社会的な役割や歴史、日本文化の特性にも目を向けた活動を増やす。		基本的な技能を習得し、試合で実践できるようにする。		社会に必要なシステムを考え、最適化された提案をすることができるように取り組ませる。		各単元における目標や評価内容を明確に示し、学習への見通しを持たす。		多様な考えを授業内で共有し、よりよい自分・社会の実現のためにできることを考えさせる。	